

地域と連携した道路管理を目指して

～国道1号亀山市太岡寺交差点クリーン作戦～

国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所

○鈴木 良 高見 泰彦

谷奥 孝 平岩 直樹

1. はじめに

近年、マナーの悪いドライバーによりペットボトルや空き缶、弁当の空箱等のゴミが道路や植栽帯に捨てられ、車の走行の支障となったり、町の環境が破壊されるなど、地域の問題として大きくクローズアップされている。三重県亀山市太岡寺町の一般国道1号太岡寺交差点においても平成9年頃からポイ捨てが目立つようになり、看板やフェンスの設置、地域のボランティアによる清掃活動を行ってきたが、一向にゴミは減少しなかった。

本論文では、地域と行政が一致協力して実施された太岡寺交差点クリーン作戦を紹介する。

2. 過去のゴミの状況

太岡寺交差点のゴミの量は、平成14年度は年間6.2t、平成15年度には年間17.4tにも達した。

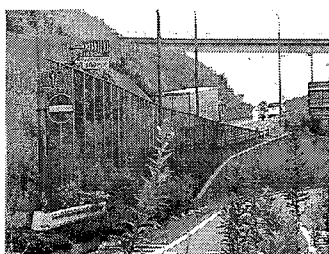


図-2 フェンスと壁

POINT ①

- 道路の両側が、無機質で黒ずんだ高い壁とフェンスで囲まれているため、閉鎖的で重たく暗いイメージ（図-2）
- 長い信号待ち
- 周辺から見られにくく隠れた状況

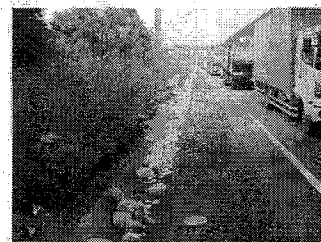


図-3 ゴミの状況

POINT ②

- 多くのゴミは、弁当の空箱やペットボトル、雑誌、吸殻、新聞、スナックの袋等が袋詰めになって捨てられている。
- 法面や側溝に吹き溜まりのようにゴミが溜まっている。

（図-3）

POINT ③ 清掃をした2～3日後の状態
（図-4）

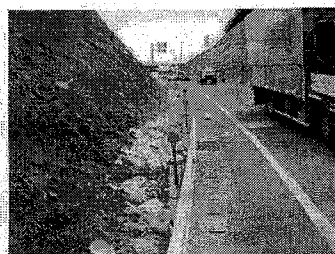


図-4 ゴミの状況2

POINT ④ 分離帯も草木が生茂り、ゴミのよい隠れ場所に…（図-5）

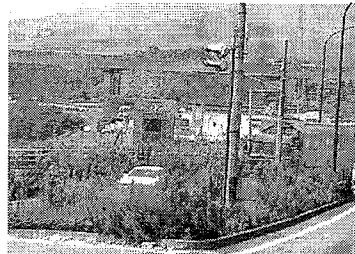


図-5 分離帯の状況

3. 過去の取り組み

行政でもこうした事態を重くとらえ、平成11年から太岡寺交差点付近を中心とした大規

模なクリーン作戦を実施してきた。ゴミ収集や除草作業、フェンスの設置、ゴミ捨て禁止看板の設置、イベントキャンペーンなども行われたが、いずれの取り組みも大きな効果が見られず、一向に改善される様子は見られなかった。

4. ワークショップ立ち上げからクリーン作戦実施に至るまで

(1) ワークショップの実施

こうした中で、平成15年11月「国道1号太岡寺交差点にゴミを捨てさせないために」をテーマとするワークショップが立ち上げられ、クリーン作戦会議が開催された。

これまでの取り組みは、『ゴミを拾う』と言う受身的な活動が中心であったが、『国道1号太岡寺交差点にゴミを捨てさせないために』をテーマに、美しい環境をつくり出すという積極的な活動を大きな特徴としている。行政関係者に加え、ボランティア団体、地元企業、地元住民、中学生、高校生などを交え、80名という多数の方が参加している。

ワークショップは計3回行われ（図-6）、クリーン作戦に向けて意見の集約、具体策、実施方法などを下記の内容で検討した。

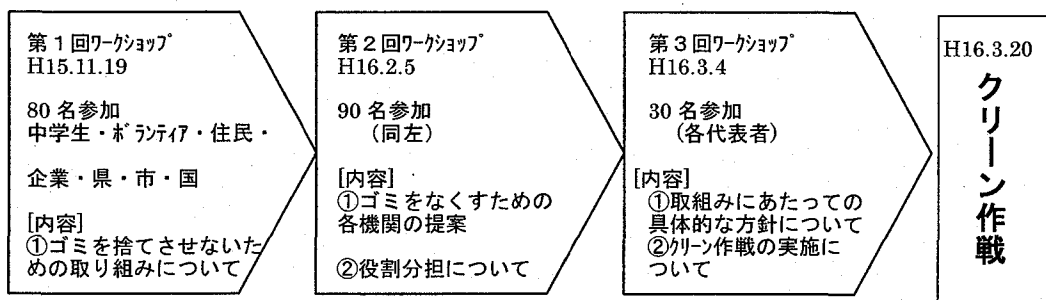


図-6 ワークショップの流れ

(2) ワークショップにて出された意見と具体策

ワークショップでは、市民などの意見に加え有識者の意見を取り入れ、誰もが納得できる内容でデザイン等を決定し、細かい部分までこだわりを持ち、各事案を検討した。

a) 効果的な看板の設置

地域の声やモラルを訴える看板、大型看板を設置する

《ワークショップで出された意見》

◎厳しく取り締まるような内容ではなく、心に訴えるもの

◎捨てようとした時にドライバーの目に入るような位置に設置 など

具 体 案①	取組む目的、期待効果	役割分担、担当
地域の声やモラルを訴える看板の設置	・効果的な看板の設置 ・地域の声やモラルを訴える	看板の製作…国 標識の内容…地元中学校 地元高校 計4校

《ワークショップで出された意見》

◎モニュメント的な役割を担うものにする

◎花壇のイメージを壊さないものにする など

具 体 案②	取組む目的、期待効果	役割分担、担当
大型看板の設置 どこからでも見える位置に、存在感のある巨大看板の設置	クリーン作戦の取組みをアピール、意識の啓蒙を図る	看板の色、形のデザイン …有識者、国 看板の製作、設置…国

b) 交差点の修景整備

花壇の整備や、コンクリート面の壁画によりイメージアップを図る

《ワークショップで出された意見》

◎花は出来るだけ鮮やかなものを選ぶ。(黄色や赤などが良い)

◎専門の有識者（ガーデンコーディネーター）に依頼して、ただ植えるのでは

なく、苗の扱いや植え付け方、花の組合せを指導してもらいながら行う など

具 体 案①	取組む目的、期待効果	役割分担、担当
・ 三角形分離帯を花壇に ・ 法面にプランターで花壇スペースを ・ 縦に長く延びている分離帯に街路樹と緑地整備	雑草だらけの緑地帯を色鮮やかな花で彩り、道行くドライバーに憩いと潤いを与え、ポイ捨てへの罪悪感を促す。クリーンで明るくさわやかな空間を演出し、イメージアップを図る。	苗、土、道具の準備…国、亀山市商工会等 作業指導…有識者 植栽活動…市民参加者など (主に婦人会、老人会、ボランティア団体など)

《ワークショップで出された意見》

◎季節を通じて違和感のない図柄にしたい

◎誰もが塗りやすい、みんなが参加できるもの など

具 体 案②	取組む目的、期待効果	役割分担、担当
コンクリートの壁に壁画を	コンクリート塀に壁画を書いて、周囲の視線や関心を集める効果とこの場所の付加価値を高める演出	壁画の図案、下書き…有識者 色付け…市民参加者 (主に中学生、高校生など)

c) 監視システムの導入による情報提供とドライバーへの警告

ドライバーに警告を促し、「見つからなければいい」、「誰も見てない」などの意識を払拭する。
(図-7)

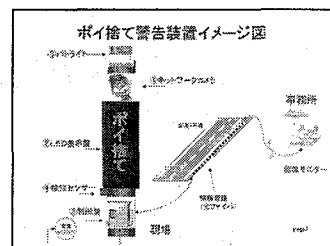


図-7 ポイ捨て警告装置

5. クリーン作戦当日の様子

当日(H16.3.20)は、少し曇り空の肌寒い日にも関わらず、当初の予定を上回り、中学生から老人会の方まで700名余りの参加があり、盛大なイベントとなった。(図-8)

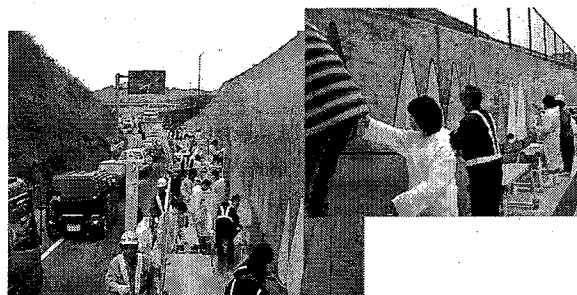
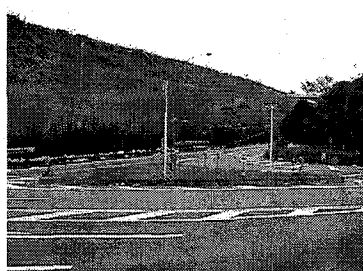


図-8 クリーン作戦の様子

6. クリーン作戦実施後の交差点の状況

(1) 実施された主な具体策の様子

黄色い花壇がひととき鮮やかで、あたり一帯が明るい雰囲気。中央に設置した看板は、3方向の道路のどこからでも見える位置にあり、白い看板にすることでさわやかな存在感を演出している。(図-9)



→

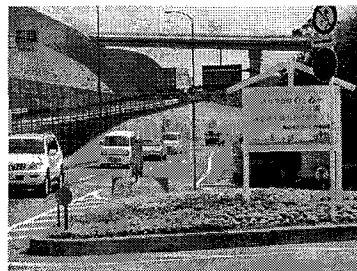


図-9 三角分離帯の様子

フェンスをはさんで、プランターに花を植えて設置。工夫をしてすっきりとまとめ、見通しを良くすることで、ポイ捨てをしにくくなることを狙っている。(図-10)

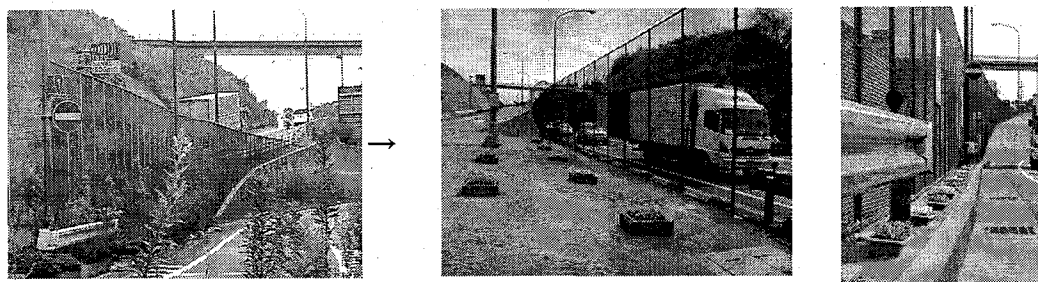


図-10 プランターによる花壇

壁画は時代の流行や老若男女に関係なく広く受け入れやすい樹木をモチーフにし、27色にも分けて塗られ、年間を通じて違和感のないように工夫している。(図-11)

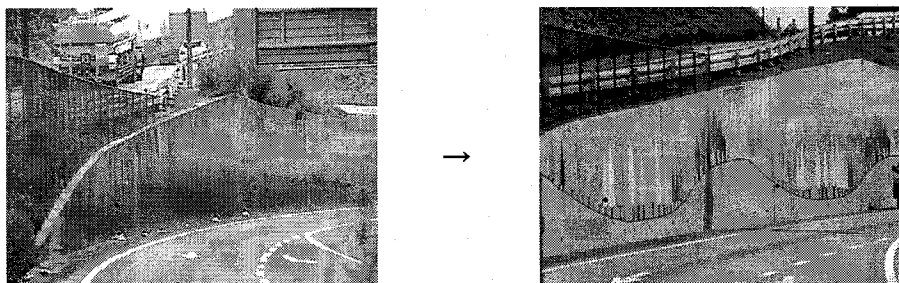
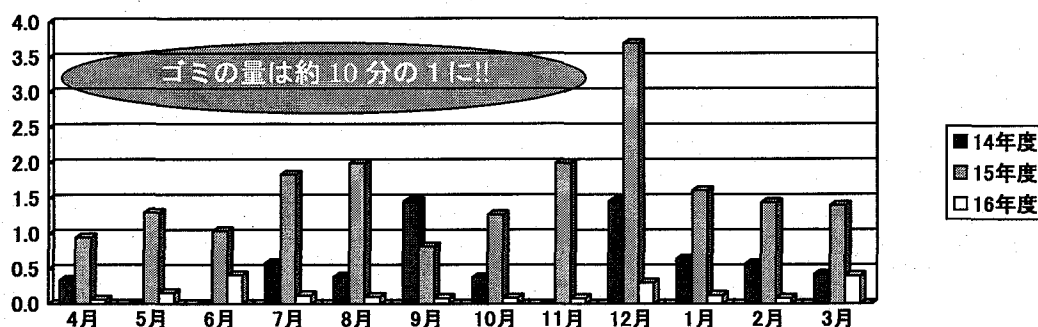


図-11 中高生が描いた壁画

(2) 作戦後のゴミ量の推移

平成16年3月20日のクリーン作戦以降、太岡寺交差点付近に捨てられるゴミの量を前年と比較して10分の1まで減少させることに成功した。(表-1)

太岡寺交差点で回収したゴミの量(t)



年度	平成14年度 (5・6・11月を 除く)	平成15年度	平成16年度
ゴミの量 (t)	6.2	17.4	1.83

表-1 ゴミの量の推移

7. 最後に

本作戦では、住民、行政などの綺麗にしたいという思いを広く伝え、ドライバーへのモラルやマナーの向上等、意識の改革を促す演出、空間づくりを行なった。また、市民などの意見に加え、有識者の意見を取り入れ、誰もが納得できるように意味付けしながら取り組んだことが今回のクリーン作戦を成功させた大きな要因のひとつになっている。今後も市民や企業、行政等の関係機関が連携した取り組みが長期的に継続することが不可欠であると考え。